

● 環境演劇「水たんけんたい ~イワナの旅~」(11月)



子どもたちが森で迷子になると、イワナのお姫様があらわれました。



みんなはイワナに変身し、水がなくてお米が食べられない時代のことを知ります。



となり村の長老さまが「みんなで川の水を大切に使うこと」と決めました。



「イワナのすめない川は、人間も暮らすことができない」ということを、イワナのお姫様が教えてくれました。これからも、みんなで力を合わせてイワナのすめる川を守っていきます！

●法奥小学校の「みどり学習(総合的な学習の時間)」を紹介します！

◆みどり学習の目標「自立・創造・共生」

子どもたちが地域の人々や施設・自然と関わる体験活動を通して、自ら課題を見つけ(自立)、それらをよりよく解決していこうと努力し(創造)、人と自然と共に生きようとする子を育てる(共生)。

◆全教育活動と関連した3つの領域

「^{みず}水、^{つち}土、^{さと}里」の領域を設定し、各教育活動と関連した地域学習に取り組ませる。

水



4年「十和田湖 水たんけん隊」

田んぼの水はどこから来るのか？という疑問をもとに、十和田湖の水源まで調べに行きます。1学期から2学期まで継続して行い、水の流れを調べるための「イワナロボット」づくりや水質調査の方法も学習します。



3～6年「ヤマメの稚魚放流」

地元の漁業協同組合の協力で奥入瀬川にヤマメの稚魚を放流し、川にすむ生き物を大切にすることを育てます。

5月 ふるさとクリーンウォーク(全校行事)

1、2年生「用水路コース4km」
3～6年生「奥入瀬溪流コース13km」
公民館で「版画紙芝居 新・十和田湖伝説」を見た後に出発し、多くの地域の方々の協力のもとゴミ拾いや自然観察をする中、自分なりの課題を見つけます。1年間の「地域学習のスタート」に位置づけています。



土



6年「縄文の風」

三内丸山遺跡見学後、学校で土器の野焼きを行い、自然と共生した縄文人の苦労や工夫を体験します。



5年「夢田んぼ」

地域の農家の方から田んぼを借りて、田植えから稲刈りまでお米の生長を観察しながら地産地消の大切さも学びます。



全校行事「植樹体験学習」

木を育て、森を守っている地域の方を招き、実際に植樹をして、その苦労や喜びを体験します。

里



4年 環境演劇「水の星 地球」

1年間の学習を創作劇にまとめて、十和田湖・奥入瀬川水系子ども環境サミットの会場で発表しました。



3年「カブトムシの森たんけん」

地域の方が守っている森に行って、カブトムシの幼虫を採集します。昆虫の成長を観察したり、人工林と雑木林の比較をしたりする活動を通して里山の大切さを学びます。



5年「仕事場体験学習」

地域の特徴をいかした仕事場へ出かけ、多くの人と関わり合いながら、地域で働くことの大切さを学びます。

2月 十和田湖・奥入瀬川水系子ども環境サミット

十和田湖、奥入瀬川の流域にある5つの小学校が集まって環境について調べてきたことを発表し合います。法奥小では1年間の「地域学習の成果を発表する場」として考え、参加校はもちろんのこと、全校児童や地域の方々へも情報発信しています。



●法奥小学校 4年生児童の感想



ぼくが大人になった時は、人間と自然が仲良くなれるように自然を守りたいと思います。イワナの里にくる人たちが「わあ、きれいだあ」と思える川にしていきたいです。

..... 下山 伊織

大人になってもイワナが安心してすめるようになってほしいです。そして、自分の子どもにも見せたいです、川をきれいにする活動がんばりたいです。

..... 鈴木 涼

これからもきれいな川でいてほしい。ぼくがおとなになってもきれいな川でいてほしい。イワナも人もくらせる幸せな川でいてほしい。

..... 白山 裕有貴

ぼくはイワナの里づくりをしてから用水路や小さな川にイワナがいないか気になります。将来、どんな川になっているか楽しみです。

..... 石倉 大樹

未来の自分が心配です。この地球を愛し、そしてきちんと生き物を大切にしているか。それがとても心配です。これからはイワナの数が減らないように川をきれいにしたいです。

..... 長谷地 汰玖真

今はすごくきれいだけれど、前はよこれていたの、私もみんなも地域の人たちと努力して川をきれいに、大切にしたいと願います。

..... 橋端 玲香

未来の川でもごみが川に浮かずに魚が泳ぐ川になってほしいとぼくは願っています。これからも川をきれいにしたいです。

..... 山田 理央

今の川は少しかたないので、これからはとてもきれいな川をつくっていきたいです。イワナの卵も安心して産めるようにしたいです。

..... 甲田 夏海

イワナの里づくりで産卵床の仕事をしたのはすごく難しかったです。でも、イワナが安心して卵を産んでくれたのでうれしかったです。

..... 橋場 愛

今の川がきれいなのは、地域の人たちが守ってくれたおかげです。私もこれからずっと川を大切にしていきたいです。

..... 齋藤 晴香

イワナの里は上流につくったのに、そこまでイワナが来て卵を産んだのがすごいと思いました。未来までもきれいな川にしていきたいです。

..... 泉 舘 大介



これからも用水路へ続く、きれいな川を大切にしていきたいです。ぼくが大人になってもゴミ一つ無いきれいな川を守り、イワナが安心してすめる川にしていきたいです。

佐伯優仁

大人になっても川の生き物、川の水を大切にしていきたいです。いつまでも川がきれいで見守られるように見守っていきたいです。理由は川の水の大切さを学ぶ事ができたからです。

新山滯太

私はイワナの里づくりをして思ったことは、イワナが卵を産んでくれるといいなということです。大人になってもイワナが卵を産める川でいてほしいです。

鈴木もも

私はイワナの里づくりをして思ったことは、イワナを育てるのはけっこう大変なんだなということです。この努力をみんなへ伝えたいです。

泉 舘 楓

ぼくが大人になったときは生き物が安全に安心してくらせる自然になってほしいです。今までよりずっと自然を大切に、川を見守って、自分の子にもわかるようにがんばりたいです。

上川原 拓 哉

わたしたちのつくったイワナの家にお卵を産んでほしいなと思いました。これからも大きくなったイワナがまた、この川にもどってきてほしいなと思います。

小笠原 麻 那

わたしが大人になったときにはふるさとの川がきれいで生き物がたくさんいるといいです。私が住んでいたふるさとの川のことを自分の子にも教えていきたいです。

小笠原 美 空

私が大人になってもずっと卵を産み続けて元気なイワナが生まれてすいすい泳いでいるといいなと思います。イワナの命がむだにならないような川にしたいです。

坂 本 雪 乃

私はイワナが卵を産めるようにイワナの里づくりをしました。私はイワナは石の下にお卵を産んでいるんだなあと知りました。そして、ていねいにつくりました。

氣 田 唯

大人になってもイワナの里の川がもっときれいになって、イワナの卵がたくさんかえる川になったらいいです。

上 坂 真紀子

産卵しているか調べてみました

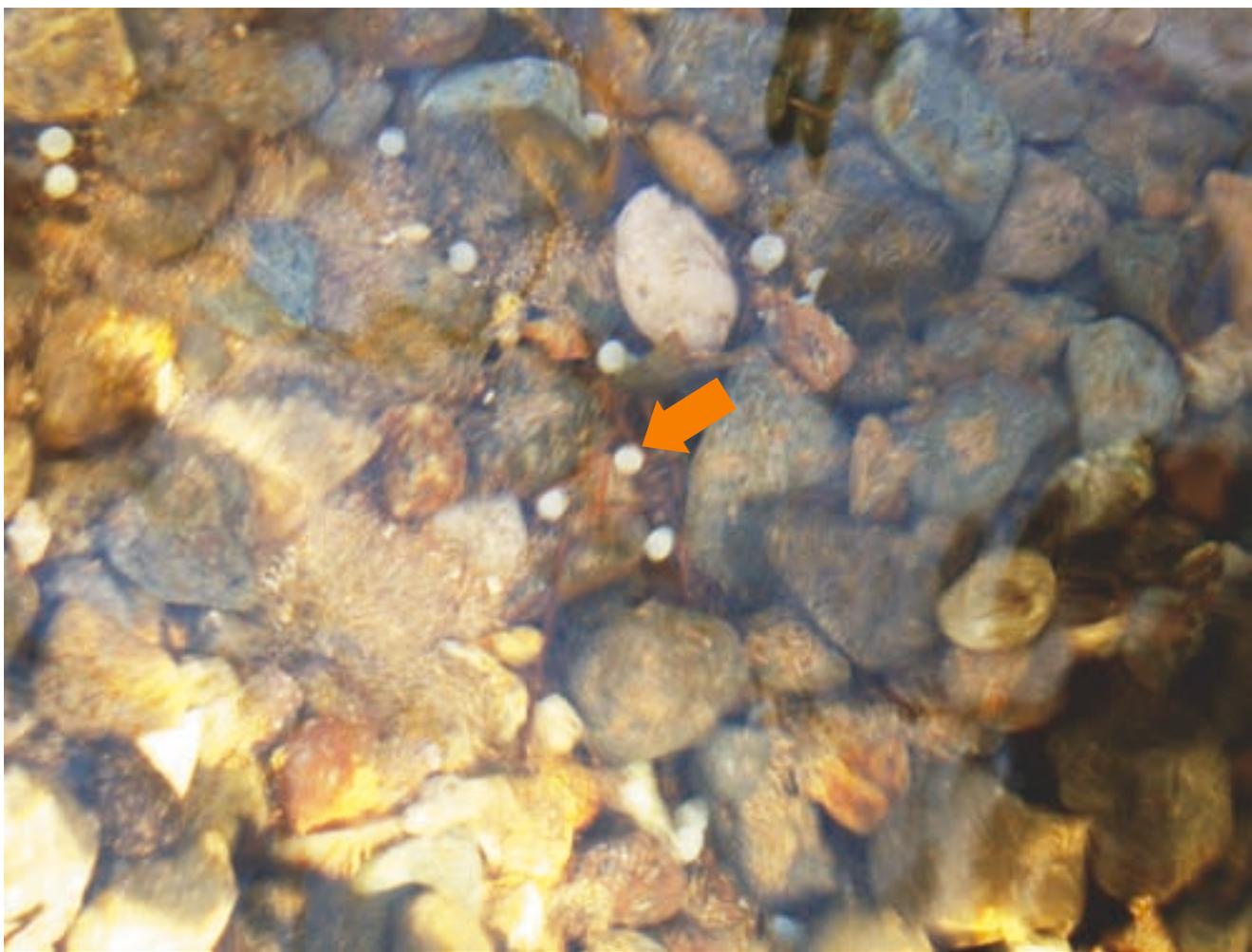
2009年11月4日と24日、人工産卵床で、イワナの卵が産みつけられているのを確認しました。



卵はあるかな？



卵を発見！



イワナの卵は12月頃にふ化します。生まれたばかりの赤ちゃんイワナは卵のうという栄養のかたまりをお腹に持っており、そこから栄養をもらい春まで石の間でゆっくり成長します。そして4月頃稚魚となって川に泳ぎだします。

あしがき ~自然豊かな川をめざして~

大雨の時、川は暴れ人をさらい多くの命を奪ってきました。そのため川にダムをつくり洪水から人の命を守り人が安全で安心して暮らせるようにしてきました。川にせきをつくり田んぼなどに使う水を川から引いてきました。ダムやせきからは、発電のための水、畑などに使う水、工場を使う水、人が生きていくために必要な飲み水などをもらっています。これまでに、川には人の生活を豊かにするためにいろいろな河川構造物を造ってきました。そのおかげで、大きな洪水による被害も少なくなり、安全な水とおいしいお米で安心して生きていけるようになってきました。

しかし、一方、魚たちにとっては、せきやダムによって川を自由に行き来できなくなり、川はすみにくくなっていました。

最近、新しいダムやせきには魚道（魚の通り道）が設けられ、これまで魚道のなかったせきなどにも魚道がつけられるなど、少しずつ魚たちにとっても、すみやすい環境が整えられてきています。

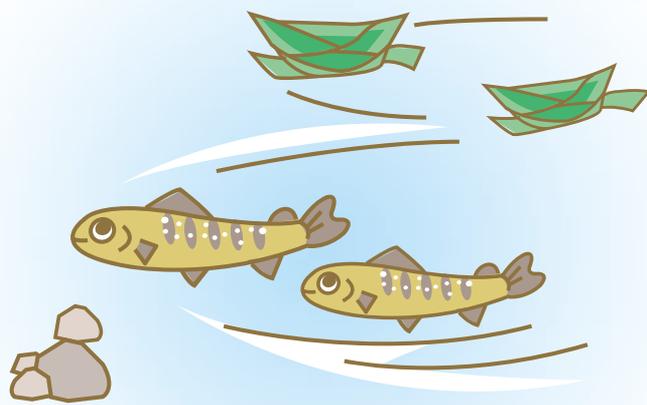
魚にとってもすみやすい川となるように、私たちはこれからも、地域の人たちと手をつないで、鳶川に産卵床をつくったり、魚道を整備してもらうための活動を続けます。

川は人に恵みを与え、人の心をつくり、人を育み、ふるさとを創ります。川はみんなのもの、いつまでも自然豊かな川を残し、良いふるさとを残すことが大切です。

あおもりの川を愛する会 事務局



みゆきばし おいらせ はっこうださん
御幸橋からみた奥入瀬川と八甲田山



●法奥小学校 4年生児童の感想文

たまご産むかな

上川原 拓哉

「この川、名前ついてないの。」

林に入って川を見たときそう思いました。焼山の近くにあり、はばが50センチメートルくらいの川です。そして、大人の人たちがイワナがたまごを産む場所を作る手本を見せてくれました。その時みんなは、「すごいな。すごいな。」

と言いました。砂をスコップでほって、イワナがきちんとたまごを産んでほしいと思いながら、働いている事が分かりました。重い石が入ったふくろを、川を止めるために置いていました。板を坂の所に立てて完成しました。ぼくは、

「すごい。早くやりたい。」

と、言いました。

次がぼくたちの番です。赤組と白組にわかれて作業しました。最初、大人たちがやっていた時、砂をほっていました。見ていた時は、けっこうかんたんにほれそうだと思ったけど、みんなはけっこうほれていたのに、ぼくはあんまりほれませんでした。スコップが重くて深くほれません。ぼくは、

「もっとがんばろうよ。」

と、赤組の人たちに話しました。

そして、少しずつ、大人たちがまざっている時に、見ながらやりました。いっぱい砂がとれました。そしたら、大人の人たちに、

「すごいね。君。」

と言われました。二度も「上手。」と言われたのでとってもうれしかったです。次は、重い石が入ったふくろを坂がある所に置きます。でも、一人じゃ重すぎるので、二人ずつ持ちました。そして、どんどんと坂の所に置いていきました。するとぼくは、

「あともうちょっとで完成だね。」

と、赤組たちに話しました。

最後に、大人の人たちが、板を坂の所に立てました。

そして、赤組は完成しました。白組も完成しました。川を見ると、水の色が茶色からとう明な色に変わっています。とってもきれいでした。最初は、どろ水だったけれど、イワナのために、水をきれいにすると心がけてやりました。少しの水が流れていた川も、きれいにしていきたいなと思いました。足もすごくぬれました。それだけとてもがんばったことが分かりました。

これからも、水がきたない所があったら、きれいにしていきたいです。そうするとふるさとの自然がきれいになって、みんなも喜んでくれると思います。

ぼくは、

「早くたまごを産んでほしいな。」

と、願いをこめました。

イワナの里づくり

上坂 真紀子

最初に、見本として大人の人たちが見せてくれました。今日は、イワナの家を作るため、つた川のとなりの小さな川にクラスで来ました。

まず、40センチメートルぐらいのあなをほります。スコップでほります。次に大きい石を入れます。その次に小さい石を入れて、最初のあなをほった土をふくろに入れます。結んで土やすながこぼれないようにします。

いよいよわたしたちの番です。赤組と白組で分かれてやりました。最初に、40センチメートルのあなを、スコップでほりました。ほりにくかったし、すごく重かったです。順番に、一人、2、3回ずつやりました。次に大きい石を入れます。わたしはももちゃんと声を合わせて、

「いっせいのおで。」

と、声を合わせながら石をババーと入れました。けっこう重かったです。もうすでに、ズボンの下の方がぬれて冷たかったです。どんどんできてきました。わたしは、

「早く完成して、イワナがたまごを産んでほしいな。」

と思いました。その次に小さい石を入れます。これは、すごく軽かったです。にごっていた水が流され

て、どんどんきれいになっています。次に、最初にほった土を入れたふくろを、水が少し流れるくらいに土台にします。それは大人が運んでくれました。その次に、板をうちました。水の流れをゆるやかにするのです。これは大人がやりました。2枚から4枚くらい打ちました。とうとう完成しました。わたしは、

「やったあ、できたあ。」

と喜びました。水がすき通って見えました。

作った後、写真をみんなでとりました。その後に、歩いて足湯に行きました。その足湯は、いつもぬるかったのに、この時はあたたかかったです。わたしは、

「あったかいな。」

と言いました。冷たかった足もあたたかくなりました。ぬれた所をふいて、バスに乗って帰りました。

わたしはイワナの里を作ってよかったなと思いました。これからも何年も使ってほしいです。また機会があったら作ってみたいし、本当にイワナがたまごを生んだら、そのたまごを見てみたいです。ふるさとの川を大事にすると、いろいろな生き物が安全にくらせます。これからは川をどんどんきれいにしていきたいです。

たまごを産んでほしいなあ

小笠原 麻那

「ここが入り口かあ。」

ここはイワナの里の入り口です。けがが石にへばりついているみたいでした。草の中を歩いていると、

「ザーザー」

と音がしました。

「なんだろう。」

と思って横を見たら、とても小さい川が流れていました。もう少し歩いていくと、川の方を見て止まりました。わたしは、

「どうしたんだろう。けがをしたのかなあ。」

と思いましたが、ちがいました。川をわたっていました。川の流れるは速かったです。わたったら、また歩いて行きました。そしたら、川が大きくなっている事に気が付きました。歩いていると中で大人の人達が止まってしまいました。そして、

「お手本を見せるからね。」

と言いました。とても速く、とてもていねいに、さっさと作業を進めていました。みるみるうちにイワナのたまごの入る場所ができあがりました。わたしは、

「かっこいいなあ。こんなに速くできるんだ、すごいなあ。」

と、とてもそう思いました。わたし達もやりました。まず、赤組と白組に分かれました。わたしは白組でした。まず、雪乃ちゃんがスコップで石やすなをたくさんふくろに入れていました。

「麻那もやる。」

と言ってスコップを持ったら、

「スコップが重たいよお。」

と言いました。そしてほり出しました。すなや石はすうっとにげていきました。わたしは、

「雪乃ちゃんすごいなあ。」

と思いました。玲香ちゃんが、

「お手本見せてあげる。」

と言ってほってくれました。玲香ちゃんもスコップにすごく石やすなが入っていました。わたしも、もう1回チャレンジしました。少しだけど、すなが入っていました。うれしかったです。ほった土やすなを大きいふくろに入れました。そのふくろを二人一組で川の横に運びます。わたしは真紀子さんと持ちました。とても重くてつかれました。そのふくろを3回くらい運びました。その後、大人がイワナの家の土台を作りました。その土台のまわりにさっきのふくろを置きました。イワナの家が水たまりみたいになりました。これで完成です。わたしは真紀子さんと、

「よかったね、きれいにできて。」

と言いました。

今まで水なんて気にしてなかったけど、いろいろな用水路や川を見るたび、水を観察するようになりました。わたしたちの作ったイワナの家に、たまごをうんでほしいなと思いました。大きくなったイワナがまたこの川にもどってきてほしいなと思います。そのために川をきれいにする気持ちを大切にしたいです。